



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	北海道大学埋蔵文化財調査室ニュースレター 第14号
Description	特集 「北海道式古墳」
Issue Date	2012-03
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/53533
Type	journal
File Information	NL14.pdf



埋蔵文化財調査室ニュースレター

特集 「北海道式古墳」

古代の生活を知るためには、衣食住に関わる部分だけでなく、生命の誕生や死に関わる考えの復原研究も必要です。そのためには、古代の死生観を反映しているかもしれない埋葬施設を調査し、把握することが大切です。

北大構内の遺跡からは、続縄文文化～擦文文化の集落址や続縄文文化の墓（土坑）が発見されますが、擦文文化の墓は見つけれませんでした。古代の人々が暮らし、亡くなった際の埋葬などは謎につつまれていました。しかし、医学部陽子線研究施設地点の発掘調査において、擦文文化前期（8世紀～9世紀）の埋葬施設の一つである「北海道式古墳」が確認され、実像が明らかになってきました。

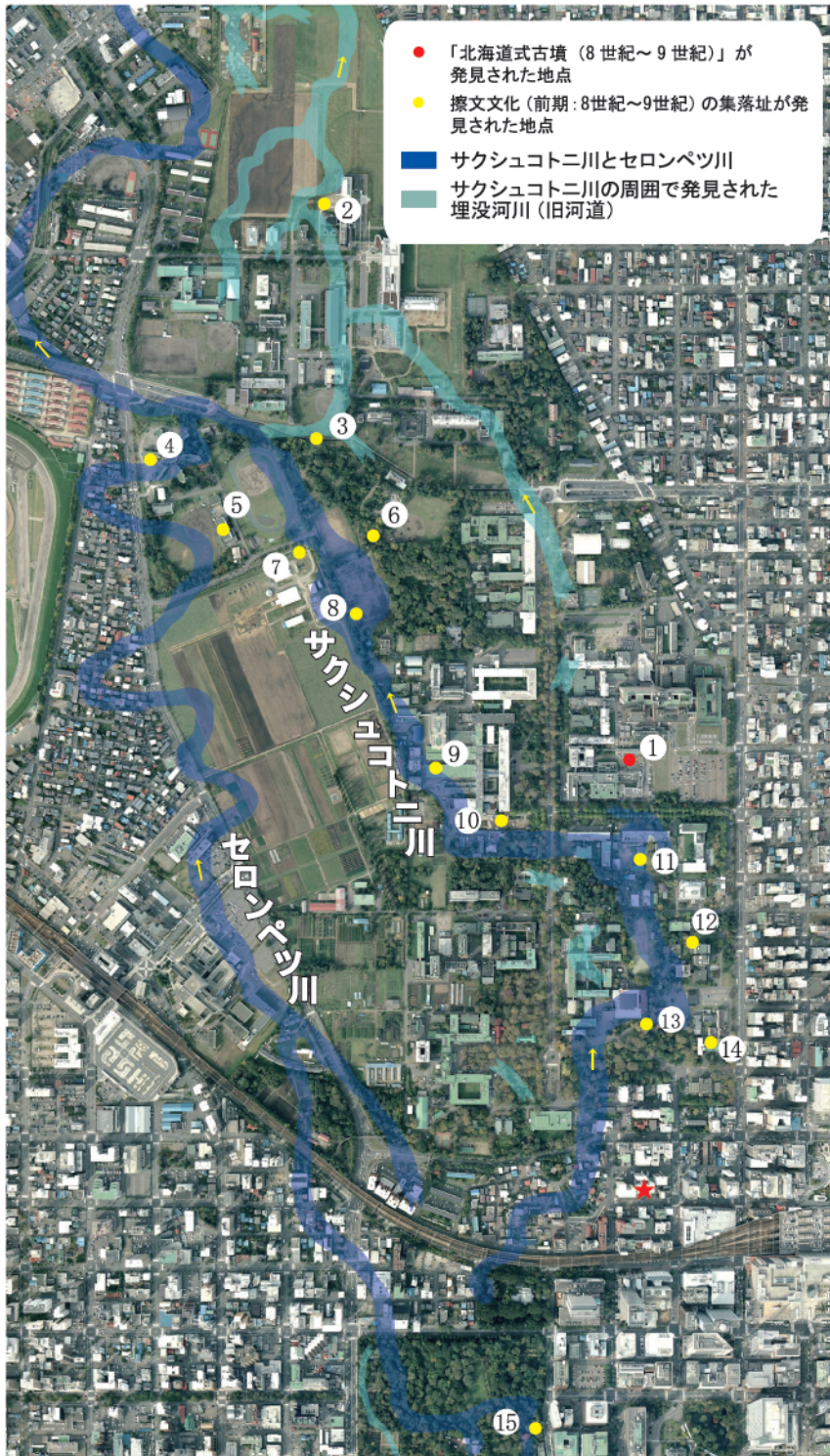
本号では、北大構内で初めて確認できた「北海道式古墳」を特集します。



▲ K39遺跡医学部陽子線研究施設地点で発見された「北海道式古墳」の溝（北東側からの撮影）

溝の調査をおこなっている状態。上から見るとドーナツ形であった溝の範囲に幅20cm～30cmの帯を設定して、溝に堆積した地層の観察をおこないながら、溝の形や底面を確認した。戦前に建てられた建物の基礎工事（礎を敷き詰めた上にコンクリートブロックを設置）によって部分的に壊されていた。赤破線で囲った部分では、擦文土器の甕や鉢が土圧によってつぶされた状態で発見された。擦文文化前期（8世紀後半～9世紀）のものである。

「北海道式古墳」（および同時期の遺構）が発見された地点



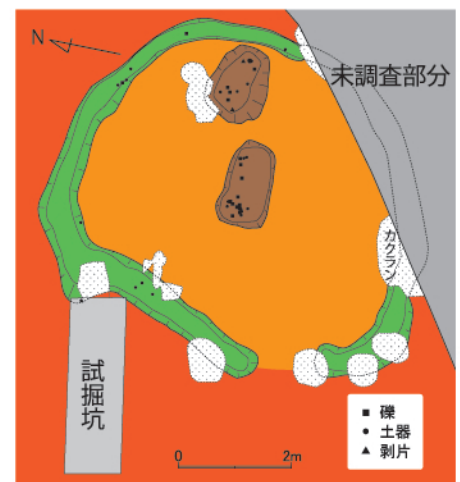
医学部陽子線研究施設地点①で発見された鉄製品

北海道式古墳の溝から発見された。全面が茶褐色の錆によって覆われ、部分的に錆がふくれあがっている。木柄の先端に取り付けた鋤先もしくは鍬先(擦文文化)。



医学部陽子線研究施設地点①発見の擦文土器

北海道式古墳の溝から、重なった状態で発見された。左が甕(口径26cm)、右が鉢(口径11cm)である。甕は底が欠けていた。鉢には、外側に沈線文がみられ、内側に炭素を吸着させた黒色処理が観察された。



札幌市北区北7条西6丁目(左図★印)で発見された北海道式古墳の平面図

円環状に溝があり、溝の内側に長軸1mの土坑2基が存在した。札幌市教育委員会によって2005年調査。

番号 地点名	遺構	時期・出土遺物	備考
① K39遺跡・医学部陽子線研究施設地点	北海道式古墳(溝の一部)、土坑	擦文・擦文土器片、鉄製品(鋤・鍬)、須恵器	未報告
② K39遺跡・北キャンパス総合研究棟6号館地点	竪穴住居址1基、土坑3基、小ピット2基	擦文・擦文土器片	未報告
③ K39遺跡・エルムトンネル地点	竪穴住居址55基、土坑、がけ址、炭化物集中箇所	擦文・擦文土器片、石器、木製品、鉄製品(鉄斧・刀子)	K39遺跡第6次調査札幌市文化財調査報告書65
④ K39地点・恵迪寮地点(サクシュコトニ川遺跡)	竪穴住居址5基、炭化物集中箇所	擦文・擦文土器片、石器、鉄製品、木製品	サクシュコトニ川遺跡1986
⑤ K39遺跡・サークル会館地点	竪穴住居址3基、焼土址	擦文・擦文土器片、石器	北大構内の遺跡1
⑥ K39遺跡・更衣室地点	竪穴住居址1基、	擦文・擦文土器片、石器	北大構内の遺跡17
⑦ K39遺跡・西門地点	焼土粒集中箇所	擦文・擦文土器片	北大構内の遺跡12
⑧ K39遺跡・サッカー・ラグビー場地点	炉址、焼土粒集中箇所	擦文・擦文土器片、石器	北大構内の遺跡14
⑨ K39遺跡・工学部J・1棟間地点	竪穴住居址1基	擦文・擦文土器片	北大構内の遺跡12
⑩ K39遺跡・工学部共用実験研究棟地点	竪穴住居址3基	擦文・擦文土器片	K39遺跡工学部共用実験研究棟地点発掘調査報告書2011
⑪ K39遺跡・薬学部研究棟地点	竪穴住居址3基、炭化物集中箇所	擦文・擦文土器片、石器	北大構内の遺跡16
⑫ K39遺跡・地球環境科学研究科研究棟第2地点	竪穴住居址1基	擦文・擦文土器片	北大構内の遺跡12
⑬ K39遺跡・附属図書館本館再生整備地点	竪穴住居址1基	擦文・擦文土器片、石器	未報告
⑭ K39遺跡・本部裏地点	竪穴住居址1基	擦文・擦文土器片、石器	北大構内の遺跡12
⑮ C44遺跡・植物園収蔵庫地点	竪穴住居址1基、炉址、土坑、小ピット	擦文・擦文土器片	北大構内の遺跡18

■「北海道式古墳」とは

擦文文化前期（約8世紀～9世紀）につくられた墓の一つが北海道式古墳です。円形もしくは馬蹄形の溝に囲まれた範囲内に楕円形もしくは長方形の埋葬施設が1つもしくは数基みられ、それらは土を盛った小さな丘（墳丘）で覆われます。埋葬施設内では、副葬品（太刀や擦文土器）が発見されています。

東北地方北部で形態が類似する墓がみられることから、東北地方から北海道地方のものを末期古墳として総称する場合があります。



▲江別市江別古墳群の遠景写真

史跡整備のため発掘調査し、その成果から18基の北海道式古墳が復元された。高い墳丘と低い墳丘とがみられる（江別市教育委員会「江別の遺跡をめぐる 2010年刊行」）。

■モースが見た「北海道式古墳」

エドワード・シルベスター・モースは、大森貝塚を発掘調査し、近代日本考古学の礎を築いた人物と知られています。当時、東京帝国大学の教授であったモースは、1878年7月に札幌を訪れた際に、札幌農学校や農場の近くにあった低い塚11基を見学し、その様子をスケッチするとともに、内2基を発掘したと旅行日誌に記しています。その記述内容から、それらの塚は「北海道式古墳」と考えられます。

構内でみつかった「北海道式古墳」は、モースの見た塚の一つかもしれません。



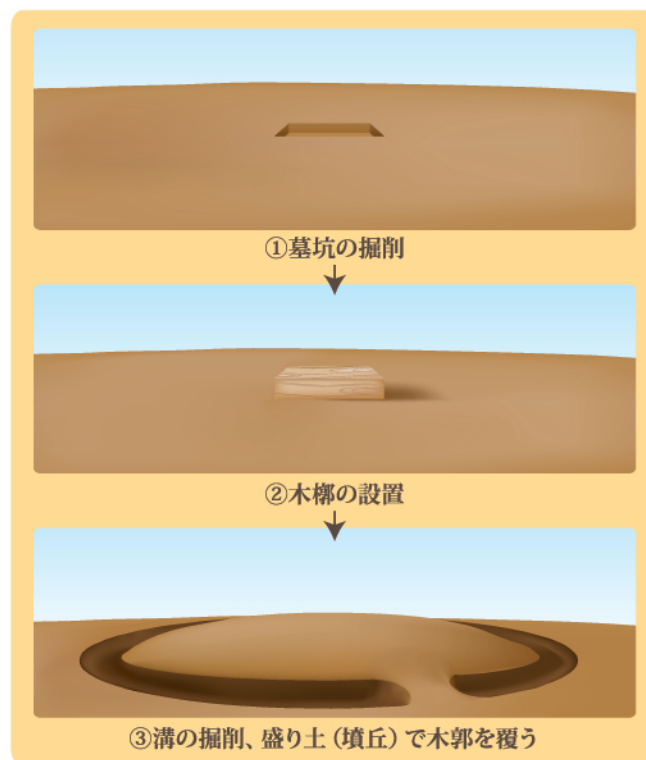
▲E・S・モース（1878年撮影）



▲E・S・モースによる低い塚11基のスケッチ。塚の大小だけでなく、高さが異なる様子もうかがえる（E・S・モース 石川欣他一訳「日本その日 その日」 1929年刊行）

■「北海道式古墳」の造り方

千歳市ユカンボシC15遺跡で発見された「北海道式古墳」の調査に基づき、造り方が推定されています。土坑を掘削し、木の棺（木郭）を設置し、溝を掘削した際の土を盛り土（墳丘）として木郭の上位に施したと想定されています。その他に、溝の内側に土坑（長軸1mの規模）が数基発見される場合があります。



▲「北海道式古墳」の構築の一例

■「北海道式古墳」に関わる遺跡の広がり

「北海道古墳」に関わる遺跡の広がりは、北海道中央部に限定されます。千歳市や恵庭市や札幌市といった、石狩川水系に沿った範囲に確認され、その多くが微高地に立地しています。



▲石狩低地帯に流れていた石狩川水系（豊平川、千歳川）に沿って、「北海道式古墳」に関わる遺跡が存在する。

北海道式古墳の整備保存について

医学部陽子線研究施設地点で発見された北海道式古墳は、北海道内において発見例の少ない、貴重な遺構であることから、大学の方針として遺構の形を保存し、地中に埋め戻されることとなりました。

学術的価値の高い遺構の保存は、大阪大学のキャンパス内でもおこなわれています。大阪大学では、豊中キャンパスの整備計画に伴う発掘調査によって、古墳文化（5世紀後半）の円墳（直径15mの規模）が2005年に発見されました。待兼山5号墳^{まちかねやま}と呼称されたその古墳は、墳丘が残っていませんでしたが、周囲の溝（周溝）が確認され、そこから埴輪が発見されています。待兼山5号墳では、豊中キャンパスの整備の一環として、解説板の設置や遺構位置の地表表示がほどこされました。大阪大学を訪れる市民にその成果や埋蔵文化財の存在がわかりやすく解説されています。



▲大阪大学内に発見された待兼山5号墳の地表表示

古墳の周溝を埋め戻した後、周溝の範囲を赤色のタイルで地表に示す整備がおこなわれた。

【お知らせ】平成24年度における埋蔵文化財調査室の調査・行事予定

詳細な実施日程・内容については、調査室のホームページあるいは北海道大学のホームページを通じてお知らせ致します。

①薬学部ファーマサイエンス研究棟工事予定地の発掘調査(4月から)

本発掘調査では、地表下0.5mの深さから擦文文化の竪穴住居址が発見されます。調査の期間中には、調査室員による調査成果の解説を現地説明会として実施する予定です。

②遺跡トレイルウォーク(予定:7月・10月)

一般の方々を対象として、調査室員の引率のもと、構内の遺跡を2時間ぐらいで散策します。

③調査成果報告会(予定2月)

平成24年度におこなった調査の成果について、一般の方を対象とした、報告会を開催します。

④ニュースレターの刊行(予定:7月・11月・3月)

毎号、北大構内の遺跡に関わる特集と調査室からのお知らせで、誌面を構成します。

⑤報告書『北大構内の遺跡XX』の刊行(予定:3月)

発掘調査の成果についての年次報告です。

展示室の一部がリニューアルしました

ニュースレター7号『北大を発掘する』で紹介した、近現代の資料が新たに展示されることとなりました。戦前、戦後に使われていたガラス瓶や陶磁器類を見ることができます。

展示室は、月曜から金曜日まで、8:30～17:00まで見学できます。

縄文文化や擦文文化の遺跡を調査した際に採集された、「地中に残されていた北大」を知る機会に触れてみてはいかがでしょうか。



▲北大構内の遺跡を発掘調査した際に採集した、近現代のガラス瓶や陶磁器の展示状況

編集後記

今回、「北海道式古墳」と関わりのある記述を調べる際、E・S・モースが旅行日誌に描いた、北海道の自然景観や当時の人物表情のスケッチ82点をみた際に、描写力と洞察力とを兼ね備えたその人物像を間近に感じることができました(守屋)。

北海道大学埋蔵文化財調査室ニュースレター 第14号

発行 : 北海道大学埋蔵文化財調査室

〒060-0811 札幌市北区北11条西7丁目

電話 : 011-706-2671 FAX : 011-706-2094

e-mail : jun-ta@let.hokudai.ac.jp

URL : <http://www.hucc.hokudai.ac.jp/~q16697/maibun/index.html>